

エコアクション21

環境経営レポート

活動期間：2021年4月～2022年3月

2021年度



千葉スバル株式会社

発行日：2022年06月30日

目 次

1. 会社概要	・ ・ ・ ・	3
2. 環境経営方針	・ ・ ・ ・	6
3. 環境経営目標	・ ・ ・ ・	7
4. 環境経営の成果	・ ・ ・ ・	8
5. 環境経営計画の内容と取組結果の評価	・ ・ ・ ・	9
6. 環境改善活動・社会貢献活動	・ ・ ・ ・	10
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	・ ・ ・ ・	12
8. 代表者による評価と見直し	・ ・ ・ ・	12
9. 経営におけるチャンスと課題	・ ・ ・ ・	12
10. 次年度以降の環境経営目標	・ ・ ・ ・	13

1. 会社概要

(1) 事業所名

千葉スバル株式会社

(2) 所在地

千葉県千葉市美浜区新港176-2

※ 店舗については(8)『EA21対象店舗一覧』を参照



(3) 代表者氏名

代表取締役社長 三浦 剛

(4) 環境管理責任者及びE A 2 1 事務局連絡先

環境管理責任者
推進事務局

取締役

間野 英雄

本社	構造改革推進部・安心ビジネスサポート課	高橋 克徳
本社	構造改革推進部・安心ビジネスサポート課	山野辺 大志
本社	構造改革推進部・安心ビジネスサポート課	寺田 裕瑛
本社	構造改革推進部・安心ビジネスサポート課	山下 友実子

連絡先 電話 043-243-2291
FAX 043-203-0120
U R L <http://www.chibasubaru.com/>

(5) 事業の内容

新車・中古車の販売
部品・用品の販売
点検・整備

钣金塗装
自動車リース
損害保険代理店業務

(6) 事業の規模

- ・売上高
- ・新車販売台数
- ・中古車販売台数
- ・社員数（派遣・パート等含む）
- ・店舗数

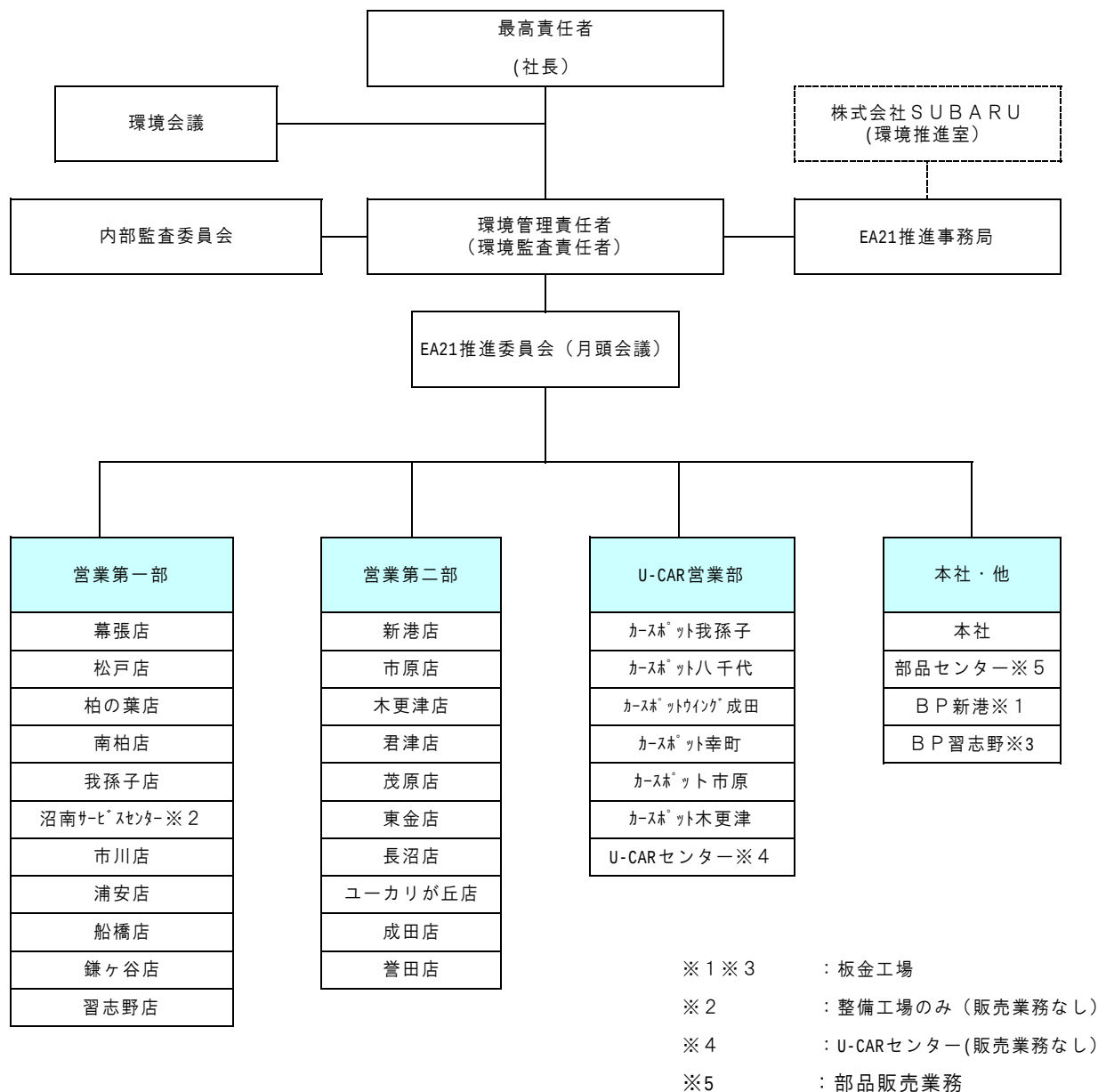
219.73億円（2021年度）
4,517台（2021年度）
3,257台（2021年度）
536名（2022年3月末現在）
本社 1
新車販売 20
中古車販売 6
その他 5

※（1）～（5）は2022年6月30日現在

※（6）は2022年3月31日現在

(7) E A 2 1 推進組織図

※ 千葉スバル株式会社は全事業所・全部門にて
エコアクション21に取り組んでいます。



※株式会社SUBARUは弊社EA21の対象組織ではありませんが、グループ会社のトップとして支援を頂いています。

※店舗推進員：店舗責任者（店長）、店舗責任者を補佐し、自部署の環境活動を指導し推進についてはサービス課長（整備工場長）が担当

(8) E A 2 1 対象店舗一覧

千葉スバル株式会社は全組織・全活動を対象としてエコアクション21に取り組んでいます。

事業所名	郵便番号	住 所	責任者	電話番号	FAX番号	面積(坪)		工場 資格	正社員				非正規	総合計	組織区分	
						土地	建物		セールス	メカニック	その他	総数				
1 本社(部品センター含む)	261-0002	千葉市美浜区新港176-2	間野 英雄	043-243-2292	043-203-0120	2507.8	1014.9	—	7		91	98	6	104	A	
2 新港店			菊地 猛	043-242-5111	043-238-1350			指定	9	11	9	29	1	30	C	
3 B P 新港			佐藤 剛	043-238-1351						6	5	11		11	E	
4 幕張店	262-0032	千葉市花見川区幕張町5-417-354	神谷 剛	043-213-3800	043-213-3805	1001.8	458.5	指定	4	5	5	14	1	15	C	
5 松戸店	271-0053	松戸市中根156-1	西村 剛史	047-363-6111	047-330-1187	1000.5	490.2	指定	7	6	6	19	1	20	C	
6 柏の葉店	277-0814	柏市正連寺406-3中央134街区4	玉垣 貴宏	04-7133-7231	04-7140-8054	926.9	193.7	指定	8	8	7	23	1	24	C	
7 南柏店	277-0856	柏市新富町1-1-11	中野 英幸	04-7147-5900	04-7147-5905	931.8	333.7	指定	5	5	5	15	2	17	C	
8 我孫子店	270-1152	我孫子市寿2-25-47	名塚 勝芳	04-7185-5050	04-7181-1137	317.3	121.2	—	4	1	4	9	1	10	C	
9 沼南サービスセンター	277-0922	柏市大島田127	久保田 治	04-7193-3700	04-7193-3710	223.0	109.8	指定		3	1	4	1	5	D	
10 市川店	272-0015	市川市鬼高4-7-5	長野 正幸	047-378-1261	047-320-3241	1397.0	837.4	指定	8	7	8	23	1	24	C	
11 浦安店	279-0002	浦安市北栄4-20-8	吉岡 一貴	047-353-2111	047-390-6450	436.0	260.9	指定	5	5	5	15	1	16	C	
12 船橋店	273-0001	船橋市市場2-9-19	木村 直登	047-423-6631	047-426-8320	657.8	196.9	指定	7	6	6	19	1	20	C	
13 鎌ヶ谷店	273-0115	鎌ヶ谷市東道野辺5-9-19	伊沢 太郎	047-442-1211	047-498-5055	1076.9	524.0	指定	5	5	5	15	1	16	C	
14 習志野店	275-0001	習志野市東習志野6-16-43	渡邊 正洋	047-473-2171	047-470-1455	1001.0	481.3	指定	7	7	7	21	1	22	C	
15 B P 習志野			池田 公紀						6	3	9		9	E		
16 市原店 (CS市原含む)	290-0050	市原市上級2-3-1	谷 勇輝	0436-37-1221	0436-20-1121	1326.0	595.0	指定	7	6	7	20	1	21	C	
17 木更津店 (CS木更津含む)	292-0014	木更津市高柳952	眞坂 貴吉	0438-23-0321	0438-20-1039	674.4	193.6	指定	6	4	5	15	3	18	C	
18 君津店	299-1163	君津市奎師4-2-7	友利 和正	0439-55-7200	0439-50-1288	486.2	137.0	指定	3	3	4	10	1	11	C	
19 茂原店	297-0074	茂原市小林1732	渡邊 弘之	0475-22-5271	0475-20-1090	633.3	209.4	指定	4	6	5	15	1	16	C	
20 東金店	289-1327	山武市姫島141-1	下川 久幸	0475-82-7221	0475-80-1005	592.5	167.1	指定	3	3	4	10	2	12	C	
21 長沼店	263-0001	千葉市稲毛区長沼原町725	松崎 陽祐	043-250-3791	043-298-9045	633.4	342.7	指定	5	5	6	16	2	18	C	
22 ユーカリが丘店	285-0850	佐倉市西ユーカリが丘6-3-5	平野 敦史	043-462-5500	043-460-1575	827.7	775.2	指定	6	6	6	18	2	20	C	
23 成田店	286-0046	成田市飯仲11-31	小野寺 猛	0476-22-6811	0476-20-1043	1032.1	210.5	指定	6	8	7	21	2	23	C	
24 誉田店	266-0005	千葉市緑区誉田町1-392-3	荒川 幸一	043-292-6601	043-226-9032	429.9	178.0	指定	4	5	5	14	1	15	C	
25 カースポット我孫子	270-1177	我孫子市柴崎34-2	小俣 啓一	04-7183-0611	04-7183-7282	1009.9	60.5	認証	3	1	2	6	1	7	C	
26 カースポット八千代	276-0036	八千代市高津東4-7-11	廣田 芳和	047-487-0486	047-487-0520	609.1	67.6	認証	2	1	2	5	1	6	C	
27 カースポットウイング成田	286-0021	成田市ウイング土屋113	鈴木 基博	0476-22-8810	0476-22-8911	462.8	69.3	認証	3	1	1	5	1	6	C	
28 U-CARセンター	284-0041	四街道市市上野346-14	福士 政聡	043-433-8505	043-433-8501	2334.8	40.7	—	7		7	14		14	A	
29 カースポット幸町	261-0001	千葉市美浜区幸町2-20-31	大関 貴弘	043-243-1321	043-243-2625	754.2	176.3	—	4		1	5	1	6	B	
※CSはカースポットの省略									総合計	139	130	229	498	38	536	

※社員数は2022年3月末現在

- 組織区分の意味
- A＝オフィス業務(事務所業務)
 - B＝オフィス業務＋自動車販売（新車、中古車）
 - C＝オフィス業務＋自動車販売（新車、中古車）＋整備業務
 - D＝オフィス業務＋整備業務
 - E＝オフィス業務＋钣金塗装

(9) 「認証登録の範囲（組織・活動）」

認証・登録番号：0006212
認証・登録年月日：2010年11月18日
認証・登録事業者名：千葉スバル株式会社
対象事業所名：（8）「EA21対象店舗一覧」を参照
所在地：千葉県千葉市美浜区新港176-2
事業活動内容：新車・中古車の販売、部品・用品の販売、点検・整備、钣金塗装、自動車リース、損害保険代理店業務

2. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

《基本理念》

当社はスバル車の販売やサービス活動の環境影響を常に考え、車が人や社会や自然とよく調和するよう、環境保全活動を進めます。

《基本方針》

この理念のもと、当社が行う自動車及び部品の販売、整備、修理、保険業務に関する事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を推進します。

1. 事業活動の全領域で、省資源、省エネルギー（CO2削減を含む）、リサイクル、公害防止に配慮した活動を行います。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスが継続的に改善できるように推進します。
3. 適用する環境関連の法規制、条例、及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. 特に次の環境保全の重要項目に対して、環境目標を設定し取り組み、必要があれば見直しを行ないます。
 - ①省エネルギーの推進（電力使用量、燃料使用量）
 - ②省資源の推進（水使用量、紙使用量）
 - ③廃棄物の排出抑制と適正処理（一般廃棄物及び産業廃棄物排出量削減）
 - ④化学物質管理の強化（P R T R法関連、V O C対策）
 - ⑤グリーン購入の推進（再生紙の購入）
 - ⑥環境に配慮した車の販売、サービスを提供
 - ⑦店舗周辺や公共施設の清掃活動を行ない、地域の環境改善に貢献する
5. この環境方針を全社員に周知し、教育活動を推進します。

2010 年4月1日 制定

(2022 年4月1日 改訂)

千葉スバル株式会社

代表取締役社長 三浦 剛

3. 環境経営目標

当社は地球環境に配慮し、CO2排出量ゼロの再生可能エネルギー発電の電力会社より電力を購入しています。

(1) 環境負荷状況

年 度		単位	2020年実績
項 目			
① 二酸化炭素排出量の削減	電気使用量	kwh	2,594,389
	CO2排出量	kg-CO2	0
	ガソリン	L	80,038
	CO2排出量	kg-CO2	185,688
	灯油	L	737
	CO2排出量	kg-CO2	1,836
	軽油	L	17,487
	CO2排出量	kg-CO2	45,116
	LPG	kg	28,574
	CO2排出量	kg-CO2	46,004
	都市ガス	m³	213,263
	CO2排出量	kg-CO2	475,576
【二酸化炭素(CO2)排出量合計】		kg-CO2	754,220
②水使用量の削減		m³	17,545
③産業廃棄物排出量の削減		t	817
④事業における環境配慮推進			
a) 車検カパー率		%	72.0
b) IoT販売促進 ※新車装着含まず		本数	14,928
c) 運転支援システムEyeSight 搭載車の販売促進		台数	5,520

※化学物質は維持管理を実施している。



【CO2排出係数 / 調整後係数】

【電気】0kg-CO2/kWh (プレミアムゼロプラン) 2019年度より導入

【ガソリン】2.32 kg-CO2/L ・ 【灯油】2.49 kg-CO2

【軽油】2.58 kg-CO2/L

【LPG】1.61 kg-CO2/kg ・ 【都市ガス】2.23 kg-CO2/m3

※排出係数は基準年度と同係数で統一

(2) 環境経営目標

年 度		単位	2020年度実績	2021年目標基準	2021年度目標	2022年度目標
項 目						
① 二酸化炭素排出量の削減	電気使用量	kwh	2,594,389	店舗の傾向により目標を設定	2,594,389	2,765,267
	CO2排出量	kg-CO2	0		0	0
	ガソリン	L	80,038		80,027	89,286
	CO2排出量	kg-CO2	185,688		185,663	207,144
	灯油	L	737		733	679
	CO2排出量	kg-CO2	1,836		1,825	1,691
	軽油	L	17,487		17,484	21,849
	CO2排出量	kg-CO2	45,116		45,109	56,369
	LPG	kg	28,574		28,574	20,988
	CO2排出量	kg-CO2	46,004		46,004	33,791
	都市ガス	m³	213,263		213,263	199,300
	CO2排出量	kg-CO2	475,576		475,576	444,440
【二酸化炭素(CO2)排出量合計】		kg-CO2	754,220		754,177	743,434
②水使用量の削減		m³	17,545		16,431	18,238
③産業廃棄物排出量の削減		t	817		806	877
④ 環境事業配に 慮ける 進める	a) 車検カパー率	%	72.0	店舗実績毎に設定	80.0	80.0
	b) IoT販売促進 ※新車装着含まず	本数	14,928		16,000	18,000
	c) 運転支援システムEyeSight 搭載車の販売促進	台数	5,520		—	—
	d) e-BOXER(2021年度) 搭載車の販売促進	台数	—		1,550	1,668

※コロナ禍の影響が続き削減が見込めない為、2021年度及び2022年度目標については前年実績をベースに店舗の傾向別に目標設定し取組む。

但し、2022年度電気使用量については、ALL電化の新店舗がオープンした為、上乗せして目標を設定。

※④ c)については、2019年・2020年：EyeSightの販売促進/2021年：e-Boxer販売促進/2022年：e-BOXER及びソルテラ(電気自動車)の販売促進を推進。

※化学物質は維持管理を実施している。

4. 環境経営の成果

当社は地球環境に配慮し、CO2排出量ゼロの再生可能エネルギー発電の電力会社より電力を購入しています。

※項目①②③は目標比とし90.0%以下は“◎”、95.0%以下は○、100.0%以下は“△”それ以外は×とする。

(1) 環境負荷実績

※項目④は達成率とし◎110%以上達成、○100%以上達成、△95%以上で少々未達、×94%以下で未達】

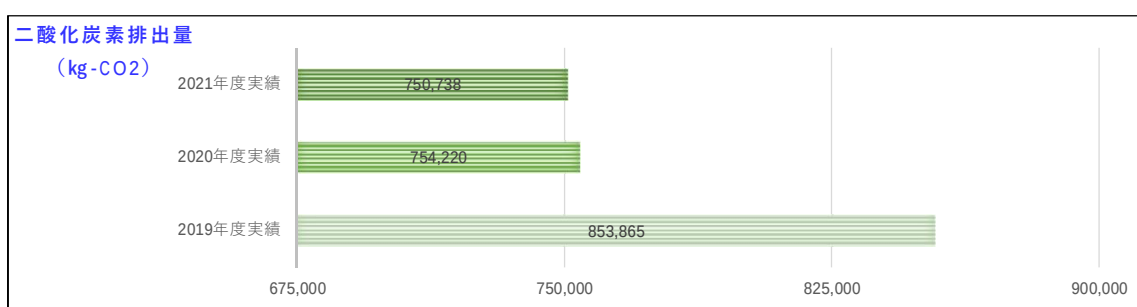
項 目	年 度	単 位	2020年度実績	2021年目標	2021年度の環境負荷の状況		
					2021年度実績	対目標比率&判定	
① 二酸化炭素排出量の削減	電気使用量	kWh	2,594,389	2,594,389	2,654,382	—	—
	CO2排出量	kg-CO2	0	0	0	—	—
	ガソリン	L	80,038	80,027	88,291	110.33%	×
	CO2排出量	kg-CO2	185,688	185,663	204,835	110.33%	×
	灯油	L	737	733	664	90.45%	○
	CO2排出量	kg-CO2	1,836	1,825	1,653	90.45%	○
	軽油	L	17,487	17,484	20,957	119.86%	×
② 水使用量の削減	CO2排出量	kg-CO2	45,116	45,109	54,068	119.86%	×
	L P G	kg	28,574	28,574	21,074	73.75%	◎
	CO2排出量	kg-CO2	46,004	46,004	33,928	73.75%	◎
	都市ガス	m³	213,263	213,263	204,598	95.94%	△
	CO2排出量	kg-CO2	475,576	475,576	456,254	95.94%	△
	【二酸化炭素(CO2)排出量合計】	kg-CO2	754,220	754,177	750,738	101.66%	×
	③産業廃棄物排出量の削減	t	817	806	937	116.12%	×
④ 環境業務に 取り組む	a) 車検カバー率	%	73.0	80.0	72.1	90.10%	×
	b) イティ販売促進 ※新車装着含まず	本数	14,928	16,000	16,299	101.86%	○
	c) 運転支援システムEyeSight 搭載車の販売促進	台数	5,520	-	-	-	-
	c) e-BOXER(2021年度) 搭載車の販売促進	台数	-	1,550	1,373	88.60%	×

※④ a)については、カバー率80%で100%達成とする。

※④ c)については、2019年・2020年：EyeSightの販売促進/2021年：e-Boxer販売促進/2022年：e-BOXER及びソルテラ(電気自動車)の販売促進を推進。

※化学物質は維持管理を実施している。

(2) 千葉スバルのCO2総排出量推移



5. 環境経営計画の内容と取組結果の評価

項 目	活動内容	評価及び今後の取組
①二酸化炭素排出量の削減	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) 事務局主体による啓発活動の強化	評価：お客様のご来店が増え、事業活動が復調しつつあり、それに伴い、CO2排出量が増加した。 今後：事業活動に必要な資源を有効に使用しながら、ロスが発生させないため店舗へエネルギー使用状況を適時発信し、削減意識を高めていく。
電気使用量の削減	1) 節電の取組み、冷暖房時の室温管理 2) 省電力の積極的な導入（LED化等） 3) クールビズ期間の拡大（6月～9月⇒5月～10月） 4) 労務管理強化による残業時間の削減 5) 事務局主体による啓発活動の強化	評価：お客様に快適にお過ごし頂くために空調使用が必要なこと、また、社員の労働環境改善のため空調機器を増設したことで使用量は増加した。 一方で、引き続き再生可能エネルギー100%電力を供給する事業者から買電したり、店舗内の照明のLED化を進めたりするなど、CO2削減に努めた。 今後：2022年度もコロナ禍への対応およびお客様の快適さと社員の労働環境に配慮しながら、適切な温度管理を徹底していく。 クールビズも引き続き期間を拡大して実施する。
燃料使用量の削減	1) 効率的な燃料(ガソリン、軽油)の使用 2) 来店型店舗の推進(ガソリン、軽油) 3) エコ運転の推進(ガソリン、軽油) 4) 冷暖房の室温管理（都市ガス） 5) 遠赤外線ヒーターの適正な使用(都市ガス、LPG) 6) クールビズ期間の拡大（6月～9月⇒5月～10月）	評価：2021年度はコロナ禍の影響を受けながらも、少しずつお客様のご来店も回復した事もあり、試乗機会が増加してガソリン使用量が増加した。 また、キャリアカーによる車両回送も増えたことから、軽油使用量も増加した。 一方、LPG、都市ガスは営業時間の短縮や閉店時間の前倒しに伴う残業の減少により使用量が減少した。 今後：エコ運転の推進は継続。 試乗による商品の価値体験を提供しつつ、アイドリングストップの推進や渋滞の少ない試乗コースの設定など、環境負荷軽減と効率化に一層注力する。 店舗工場の冷暖房設備設置を推進していることでガス使用量の増加が見込まれるが、同時に工場入口にはシートシャッターの導入も進めているので、相乗効果により社員の作業環境の改善と冷暖房効率の最大化の両立を図っていく。
②水使用量の削減	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) オフィスの節水活動推進 3) 洗車時の配慮 4) 事務局主体による啓発活動の強化	評価：入庫時の洗車増加が水使用量に影響した。 また一部設備の老朽化が原因で水漏れが発生。 発見が遅れたことにより使用量が増加。 今後：毎月の使用量増減を意識し、事務局を含めて注視して、適切な管理を行う。
③産業廃棄物の削減	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) マニフェスト管理台帳による日々の数量管理 3) 不必要な部品交換の削減 4) 事務局主体による啓発活動の強化	評価：汚泥回収および排水経路清掃を定期化したことで汚泥排出量が増加。また、店舗美化のため不用品を廃棄したことにより産業廃棄物が増加した。 一方、2021年10月に電子マニフェストを導入したことにより廃棄物管理に関する意識が高まった。 今後：今年度も汚泥の定期回収や店舗美化活動を行い、環境に配慮しながら削減活動を継続する。 電子マニフェストによる廃棄物の適正管理を定着化させる。
④化学物質の管理推進	1) 法規制、社内基準の順守 2) シンナー、ラッカー等の必要以上の使用を削減 3) 含有材料の適正在庫の徹底 4) 事務局主体による啓発活動の強化	評価と今後：PRTR制度対象事業者ではないが、一覧表にて毎月使用量の管理を行う。
⑤事業における環境配慮	a) 車検カバー率	1) 6か月毎の点検入庫促進活動の強化 評価と今後：カバー率は年度で達成出来た。 今後はより積極的にお客様へ商品を提案し、本来業務と環境負荷軽減取組みを加速させる。
	b) エコタイヤ販売推進	1) 点検入庫機会を活用した付加価値提案（エコタイヤ） 評価と今後：目標を達成する事が出来た。引き続き、付加価値提案を継続し、お客様にもメリットがあるエコタイヤを推奨して燃費向上に努める。
	c) 環境性能エンジン『e-BOXER』の販売促進	1) 環境性能エンジン『e-BOXER』販売促進により環境負荷削減 評価：環境性能エンジン『e-BOXER』販売促進に努めたがコロナ禍の影響もあり目標は未達に終わった。 今後：2022年度は、環境性能エンジン『e-BOXER』および電気自動車『ソルテラ』の販売に目標変更し、環境負荷低減を目指す。

6-1. 環境改善活動



【工場外側から閉めた状態】



【工場内側から閉めた状態】

各店舗工場出入口に自動開閉式シートシャッターの取り付けを行いました。
従来は工場入口のシャッターを開けたままの状態で作業しており冷暖房の消費が増加傾向にありましたが、シートシャッターを取り付ける事で、冷暖房の抜け漏れが軽減され、工場内の温度を一定に保つことが出来ます。
引続き未導入の店舗へのシャッター導入を計画し、更なるCO2削減に繋がります。



地球温暖化防止の一環として、環境省のクールビズ期間(5月～9月末)を10月末まで延長し地球温暖化防止に努めた。



【蛍光灯】



【LED化】

ショールームの照明をLED化に変更し、電気使用量削減に繋がりました。
実施店舗：君津店

6-2. 社会貢献活動

2021年度は「コロナ禍」でイベント活動自粛の中、下記取り組みを実施しました。



**千葉スバル 店舗屋外AED設置
24時間 365日ご利用可**

地域の皆様へ
いつでも誰でもご利用いただけるように設置致しました。
緊急の際はご利用ください。



地域の皆さんが24時間いつでも利用できるように
AEDを店舗外に設置しました。

取り組み期間

7月5日(月)～7月12日(月)

上記期間で取り組みを展開いたしますので、ご理解ご協力
をお願いいたします。
詳細は支部委員よりご案内いたします。



SUBARU労連を通じてトランスケア車両寄贈の
福祉カンパを実施しました。



海の安全、環境保全活動を行う
日本ライフセービング協会にAEDを搭載した車両を
提供し、活動強化の支援を行いました。



自動車大学校主催の高校生、在学生向け
イベントに協賛して『自動車社会の安全・環境に
対する取り組み』について講話を行いました。



海岸に打ち寄せるゴミや海に漂うゴミというのは非常に深刻な環境問題のひとつです。
社員と地元の方と一丸となりビーチクリーン「海岸の清掃活動」に参加し、継続的に環境問題に取り組んでいます。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 適用となる主な環境関連法規（遵守評価 2022.6.30）

主な適用法規	要求事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出（自動車自動洗浄装置等）	○
浄化槽法	浄化槽設置の届出、年1回の水質検査及び清掃 3-4回の保守点検の実施	○
下水道法	排水施設の設置義務、特定施設の届出	○
消防法	少量危険物貯蔵所の届出	○
フロン排出抑制法	フロン使用機器の適正管理	○
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理、廃棄物処理業者との委託契約、 廃棄物の表示・保管管理、 電子マニフェストの集計・報告	○
騒音規制法	特定施設の届出 （コンプレッサー等）	○
振動規制法	特定施設の届出 （コンプレッサー等）	○
化管法（PRTR法）	特定化学物質の排出量・移動量の把握と記録、 基準値以上の取扱量の場合に行政に報告（少量の為不要）	○
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正処理	○
自動車NOx、PM法	自動車排出NOx及びPM排出抑制に必要な措置、届出	○
以下は千葉県、各自治体の条例		
千葉県及び各市環境保全条例施行規則	特定施設「圧縮機」の規制対象出力（上乗せ条例）	○
千葉県ディーゼル条例	特定自動車の粒子状物質減少装置の装着	○

(2) 違反、訴訟等

当社における環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘及び訴訟は過去3年間ありません。

8. 代表者による評価と見直し

2021年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響が常態化し、その影響で半導体をはじめとした部品供給が滞り、新車納車までのリードタイムが長期化するなど、企業活動の停滞を余儀なくされた。エコアクション21の活動でも影響は同様であり、換気を伴う空調使用が常態化するなど、効率的なエネルギー利用に課題が残った。

一方で、オンライン研修の活用などの柔軟で効率的な教育機会が拡充され、社員一人ひとりが環境配慮に対して本質的に取り組む土壌が出来つつある。活動の本質である「企業価値を向上させる取組み」となるよう、本部・店舗のマネジメント層の認識を高める活動（分析・問題点の抽出・課題共有）を行うと共に、行動が実際に変化出来るようフォローする仕組み（改善対策を本部・店舗で共に検討・実行・改善）を進めるよう指示した。

9. 経営におけるチャンスと課題

市場が成熟化・多様化する中で、今後もお客様・社会から当社が選ばれ続け、成長し続けるためには、企業価値のさらなる向上が欠かせない。これは、安全で環境負荷の少ない新型車の提案・提供を追求すると共に、お客様のクルマを安全で環境負荷の少ない状態に「ずっと千葉スバル」でメンテナンスさせていただく事で実現すると考える。また、リユース・資産の最大活用・安定した経営基盤の確保の観点からも、下取車を千葉スバルがお客様に直接販売（小売）し、メンテナンスし続ける環境を更に強化する。

そのため、新車・U-Car併販化、U-car取扱店舗拡大に取り組むと共に、新たなサービスニーズへの対応を積極的に行っていく。車検入庫やエコタイヤの提案といった事業における環境配慮の取組みは、お客様のクルマを安全で環境負荷の少ない状態にする役割であるため、引き続き重点課題として取り組んでいく。

10. 次年度以降の環境経営目標

当社は地球環境に配慮し、CO2排出量の少ない再生可能エネルギー発電の電力会社より電力を購入しています。

(2) 環境経営目標

年 度 項 目		単位	2021年度 実績値	2022年度 目標値	2023年度 目標値 (2022年度終了 後に2022年度 基準で目標設 定予定) (現時点では 2022年度目標 値比1%削減) (④目標は 個別設定)	2024年度 目標値 (2022年度終了 後に2022年度 基準で目標設 定予定) (現時点では 2022年度目標 値比2%削減) (④目標は 個別設定)	達成手段
① 二酸化炭素排出量の削減	電気使用量	kwh	2,654,302	2,765,267	2,737,614	2,709,962	1) 節電の取組み、冷暖房時の室温管理 2) 省電力の積極的な導入 (LED化等) 3) クールビズ期間の拡大 (6月～9月⇒5月～10月) 4) 労務管理強化による残業時間の削減 5) 事務局主体による啓発活動の強化
	CO2排出量	kg-CO2	0	0	0	0	
	ガソリン	L	88,291	89,286	88,393	87,500	1) 効率的な燃料(ガソリン、軽油)の使用 2) 来店型店舗の推進(ガソリン、軽油) 3) エコ運転の推進(ガソリン、軽油) 4) 冷暖房の室温管理 (都市ガス) 5) 遠赤外線ヒーターの適正な使用 (都市ガス、LPG) 6) クールビズ期間の拡大 (6月～9月⇒5月～10月)
	CO2排出量	kg-CO2	204,835	207,144	205,072	203,001	
	灯油	L	664	679	672	665	
	CO2排出量	kg-CO2	1,653	1,691	1,674	1,657	
	軽油	L	20,957	21,849	21,631	21,412	
② 水使用量の削減	CO2排出量	kg-CO2	54,068	56,369	55,807	55,243	
	LPG	kg	21,074	20,988	20,778	20,568	
③ 産業廃棄物排出量の削減	CO2排出量	kg-CO2	33,928	33,791	33,453	33,115	
	都市ガス	m³	204,598	199,300	197,307	195,314	
④ 環境事業配に 配慮 推進	CO2排出量	kg-CO2	456,254	444,440	439,995	435,550	
	【二酸化炭素(CO2)排出量合計】	kg-CO2	750,738	743,434	736,000	728,566	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) 事務局主体による啓発活動の強化
⑤ 環境事業配に 配慮 推進	水使用量	m³	17,650	18,238	18,056	17,875	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) オフィスの節水活動推進 3) 洗車時の配慮 4) 事務局主体による啓発活動の強化
	産業廃棄物排出量	t	937	877	869	860	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) マニフェスト管理台帳による 日々の数量管理 3) 不要な部品交換の削減 4) 事務局主体による啓発活動の強化
⑥ 環境事業配に 配慮 推進	a) 車検カバー率	%	72.1	80%	80%	80%	1) 6か月毎の点検入庫促進活動の強化
	b) 点検販売促進 ※新車装着含まず	本数	16,299	18,000	16,000	16,000	1) 点検入庫機会を活用した 付加価値提案 (エコタイヤ)
⑦ 環境事業配に 配慮 推進	c) e-BOXER	台数	1,373	1,668	1,300	1,300	1) 環境性能エンジン『e-BOXER』 電気自動車『ソルテラ』の販売促進に より環境負荷削減
	搭載車の販売促進						

※コロナ禍の影響が続き削減が見込めない為、2021年度実績をベースに目標設定し取組む。

但し、2022年度電気使用量については、ALL電化の新店舗がオープンした為、上乗せして目標を設定。

※化学物質は維持管理を実施している。

【CO2排出係数 / 調整後係数】

【電気】0kg-CO2/kwh (プレミアムゼロプラン) 2019年度より導入

【ガソリン】2.32 kg-CO2/kL ・ 【灯油】2.49 kg-CO2

【軽油】2.58 kg-CO2/L

【LPG】1.61 kg-CO2/ k g ・ 【都市ガス】2.23 k g CO2/m3

※排出係数は基準年度と同係数で統一

【次年度以降の目標】

※今後の店舗拡充による増加分は加味せず。

※対基準年：2023年度→1%減、対基準年：2024年度→2%減